

安保・PNATO粉砕、ヴェトナム革命勝利

日帝のアジア派兵への道、70年安保粉砕

沖繩米軍基地撤去、米軍政打倒、沖繩前線基地化反対

佐トの69年1月訪米実力阻止

自衛隊の帝国内主義軍隊化を許すな

69年3月、自衛隊の海外派兵、治安行動の演習反対

10・21安保粉砕、全ロストライキを打ちよ

防衛庁にむけ大衆的攻撃的デモンストレーションを神田

解放区から進撃せよ

安保粉砕、日帝打倒の反帝統一戦線を建設せよ

日大斗争支援

日帝のアジア派兵への道、70年安保粉砕

アジア階級斗争はその戦線、ヴェトナムから東に「朝鮮半島線」へと転

大しよつてしている。北朝鮮首相金日成は「武力による朝鮮統一」を声明し

、プエブロ捕獲、北朝鮮がリビアの韓

国侵入ははその決意をはっきりしら

れている。北朝鮮にとっては、それは

国際階級斗争の基礎が米ソ平和共存か

ら米ソ冷戦体制への転換を反映し、か

つ日本帝国主義の対外膨張新中、韓国

への進出に対する恐怖の反映をあらわ

している。

ちやうどこのことは、ソ連の子エロ

侵入を一つの契機としてNATO軍の

再編強化が進行したのと同じように、

アジアにおける緊張の本質的進行は、

もめずもものとしてある。即ち、佐ト

政治委員とは別個に進んだ報上作戦

「し」しての「三矢作戦」モード

「し」がどの具体的表現である。

かくして我々は69年に至る安保

斗争の基礎を日帝のアジア侵略反革命

の強化の道が実質的には朝鮮を朝鮮

した「アジア派兵への道」を確定する

「オ」であるとはっきりと宣言するこ

とが出来る。

70年安保がアジア的規模において

強化されることはアジア階級斗争

の拡大と緊張関係の中から全く必

然的であるが、要はその二における

日本帝国主義は韓国から台湾を自己の

のが日帝のアジア侵略に対する態度

である。そしてこの過程を通じて、

アメリカとの市場競争戦から被

最終的にはアジアにおける軍事的入

ゲミーを掌握しようとするであろう

レニの還が沖繩返還である。一方米

帝国内主義ロインド、インドネシア

防犯しつグアム、沖繩を維持しなが

反革命の前線地を保持しながら「核

うかつにちて日帝にアジア防犯を

要するであろう。だからわが日本

国主義は諸階級階級の子供とア

アにおける危機をインドネシア、沖繩

へと外化させ、排外主義的にこれを統

合せんとするであろう。この国民的

日米安保の還

日米安保の還は

意の上にも軍事的能力を充実をはかる

たみの核武装策動、自衛隊の近代化、基

地拡張が進行する。2月、6月訪米はこの

ことを決定的に推進する契機となるので

ある。ソソまでもなく日帝による沖繩返

還、基地の掌握はアジア派兵への道を確

保する前線地となることを意味する。

「三」ベトナム反戦斗争は朝鮮

危機と構えとしてい

る方向をたどるか

韓日は日本帝国主義にとって死活的生存

戦となりつつある。